

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立堅田小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

教科に関する調査では、昨年より正答率がのび、全国や県の状況により近づいたと言えます。全国的に課題とされる、国語の「資料を読み取って、問題点や改善点を書くこと」は本校でも課題となっています。算数においては、今年は図形を扱う問題の正答率が平均並みで全国平均より点数は高くなりました。児童質問紙調査では、昨年と同じように「学校に行くのが楽しい」、「いじめを許さない」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた割合が高くなっています。

今年度の調査では全国と比べても無答率（答えを書いていない答案）が大幅に減り、選択問題、記述問題ともに答えを最後までしっかりと書き、自分の考えを伝えることができていました。一方で算数の記述問題では無答率が高かったです。全体的には正答率も高く、基礎学力の向上が見て取れました。

《強み・弱み》

『国語』

文章をまとめ要約する問題では正答率が上がっています。無答率も低く、文章を読むこと、書くことへの抵抗が少なくなってきました。記述問題の内、1-2と2-4の問題は資料を読み取り、図や表を用いて自分の考えを書き表す問題でした。本校の子どもたちは、文章で書くこと以外の表現を読み取ったり書き表したりすることが難しかったようです。また、今年も漢字の書き取りの問題では3問とも全国や滋賀県に比べて正答率は低くなっています。「読み解く力」とともに「基礎的な漢字力」をつけていく必要があると考えています。

『算数』

基本的な計算力や知識を問う問題では正答率が高いです。特に割合や（ ）を用いた式の計算など、難しい計算を含んだ問題でも正答率が例年より高く、基礎学力が向上しています。記述式問題では正答率が低くなり、問題文に合う解答となっていないものも多く見られました。ただ、どの子も無答率は低く、どの問題にもしっかりと取り組んでいます。資料を正確に読み取り、問題を整理することが課題です。

【指導の充実に向けて】

- ☆学びの基盤を確かなものにするため、今後も生活の基本的な約束を徹底していきます。特に、あいさつ・時間のけじめ・話をしっかりと聞く（聴く）ことを大切にします。
- ☆子どもたちの学習意欲は徐々に向上してきています。学習に対する子どもたちの意欲・やる気・やってみようという気持ちを大切にした授業、学習体制を目指し、より一層の授業改善に取り組みます。とくに「学び合い学習」など子ども達が積極的に参加できる学習を目指します。
- ☆今年度、毎日の「基礎学力タイム」を10分から15分にしました。漢字の学習を中心に学習していますが、学年の実態に応じて「書く」活動を積極的に取り入れていきます。これまでの取組の成果が上がり、「書く」ことへの抵抗は少なくなっているため、短時間で「書く」、条件に合わせて「書く」ということを意識して取り組んでいきます。
- ☆「読み解く力」をつけていくため、読書活動の定着・充実への取組（読み語り・本の紹介など）を続けていきます。また読み物だけでなく、グラフや表など資料の読み取りにも取り組みます。
- ☆基礎・基本である計算問題や新出漢字の定着について、基礎学習の時間や家庭学習などで、繰り返し取り組んでいきます。
- ☆家庭・地域・学校で、子どもを認め、ほめる取組を進めていくことで、子どもたち一人ひとりが自尊感情を高められるように取り組んでいきます。